



JANOME

株主のみなさまへ
第84期報告書

蛇の目ミシン工業株式会社

証券コード：6445



代表取締役社長

真壁 八郎

株主のみなさまには、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

また、日頃より暖かいご支援を賜わりまして、厚く御礼申し上げます。

ここに第84期（2009年4月1日から2010年3月31日まで）の事業の概況についてご報告申し上げます。

(1) 事業の状況

当期におけるわが国経済は、世界経済が緩やかに回復し、景気を持ち直しの兆しが見られるものの、厳しい雇用情勢が続く中、消費者の購買意欲が盛り上がり欠き、企業の設備投資も低水準で推移し、円高・米ドル安等の要因も加わり、実体経済は先行き不透明な状況で推移しました。

こうした中、当社グループは抜本的な収益構造の改善に向け、生産・販売拠点の統廃合を含め、原価低減、経費の徹底した削減を行い、利益の確保に注力いたしました。

家庭用ミシンの販売におきましては、新機種投入、展示会への出展等の積極的な販売促進施策を実施し、販売の拡大を図った結果、販売台数は前期より1万台増加し174万台となりましたが、円高による為替の影響、経済のデフレ傾向下における低価格機種へのシフト等もあり減収となりました。

また、卓上ロボット・エレクトロプレス等の産業機器製品の販売におきましては、国内販売は企業の設備投資抑制の動きの影響を受け苦戦いたしました。アジア地域におきましては景気の回復もあり、特に第4四半期に入り好調に推移いたしました。ダイカスト鑄造関連事業につきましては、緩やかながらも回復しつつありますが、まだ低い水準での受注となっております。

この結果、**当社グループの総売上高は前期比11.7%減の35,746百万円**となりました。

営業利益につきましては製造コストの低減、経費の徹底した削減に努めた結果、前期比192.0%増の**1,341百万円**となり、**経常利益は957百万円、当期純利益は529百万円**となりました。

事業セグメント別の概況は次のとおりであります。

<ミシン関連事業>

海外市場におきましては、第1四半期は世界的不況からの回復の遅れ、現地販売の急激な減少に対応した代理店の在庫調整の動き等により苦戦いたしました。第2四半期以降、新興国市場を中心に緩やかながらも景気回復基調に転じたこと、積極的な市場開拓と販売促進策の実施、普及タイプのコンピュータミシン等の新機種の投入を行った結果、販売台数は152万台(前期比2万台増)となりました。**売上高**については、為替ならびに販売単価の低下の影響を受け、**20,233百万円**(前期比2,551百万円減)となりました。

国内市場におきましては、展示会への出展等による需要の喚起、海外市場同様の新機種の世界投入など販売促進に努めましたが、消費者の生活防衛意識や節約志向の強まりの中で苦戦し、販売台数は22万台（前期比1万台減）となり、**売上高は7,246百万円**（前期比305百万円減）となりました。

一方、販売効率の向上へ向けた子会社を含む販売拠点の統廃合、製造コストの低減、経費の徹底した削減を行った結果、**ミシン関連事業合計**では販売台数174万台（前期比1万台増）、売上高は**27,479百万円**（前期比2,856百万円減）となりましたが、**営業利益は1,478百万円**（前期比910百万円増）となりました。

<産業機器事業>

世界的な設備投資意欲減退の中で迎えた当期は、顧客との緊密なネットワーク強化に精力的に取り組み、より迅速で高品質なサービス・サポートの提供実現を目指しました。また、新規需要開拓へ向け、新機種の投入及び営業担当者の営業力強化に注力しました。

中国、韓国、タイを中心とするアジア地域では、ハードディスクドライブ、半導体、自動車部品関連等、市場はいち早く回復基調に転じましたが、国内市場では企業の設備投資意欲の低迷が長期化し、期待した回復が見られませんでした。特に、ダイカスト鋳造関連事業は、国内自動車関連業界からの受注低迷の影響を大きく受けました。

その結果、**産業機器事業の売上高は3,047百万円**（前期比1,109百万円減）、**営業損失は116百万円**（前期は営業損失41百万円）となりました。

<情報処理他サービス事業>

ITソフトウェア・情報処理サービス、24時間風呂の据付・メンテナンスサービスなどに、不動産賃貸収入を加えた**情報処理他サービス事業の売上高**は企業のIT関連投資の抑制等の影響もあり、**3,526百万円**（前期比559百万円減）となりましたが、経費の徹底した削減等により**営業利益は56百万円**（前期比48百万円増）となりました。

<24時間風呂・整水器事業>

24時間風呂・整水器事業につきましては、市場が国内に限定さ

れることもあり、消費者の購買意欲回復の遅れの影響を受け、**売上高は1,692百万円**（前期比215百万円減）、**営業損失は78百万円**（前期は営業損失95百万円）となりました。

当期の配当金につきましては、利益配分のための内部留保の蓄積ができておらず、株主の皆様には誠に申し訳なく存じますが、無配とさせていただきます。

(2) 財政状態

当社グループの当連結会計年度末の**総資産は、50,512百万円**（前期比484百万円減）となりました。

資産の部では、現金及び預金が増加しましたが、たな卸資産、建物及び構築物、土地等の減少により、**50,512百万円**（前期比484百万円減）となりました。

負債の部では、支払手形及び買掛金が増加しましたが、有利子負債の減少等により、**36,863百万円**（前期比1,392百万円減）となりました。

純資産の部（少数株主持分を含む）は、**13,649百万円**（前期比908百万円増）となりました。

当連結会計年度のキャッシュ・フローの状況は次のとおりです。

<営業活動によるキャッシュ・フロー>

税金等調整前当期純利益の計上、たな卸資産の減少等により、**3,543百万円のプラス**となりました。（前期比2,999百万円増）

<投資活動によるキャッシュ・フロー>

固定資産の売却等により、**153百万円のプラス**となりました。（前期比2,215百万円増）

<財務活動によるキャッシュ・フロー>

長期借入金の返済等により**1,692百万円のマイナス**となりました。（前期比3,901百万円減）

以上の結果、当連結会計年度における現金及び現金同等物、前年度末から2,002百万円増加し、**6,869百万円**となりました。

(3) 今後について

当社グループは、金融危機を契機とする世界的不況、経済のデフレ傾向下における価格競争の激化、企業の設備投資抑制の動き、為替の円高推移等の非常に厳しい事業環境下において、抜本的な経営体質の改善及び収益基盤の強化を図るべく「収益改善計画」を策定し、製造コストの低減、経費の徹底した削減、関連会社の統廃合を含むスリム化とローコストオペレーションへ向けた各施策を実行した結果、収益的にはほぼ計画通りの成果を挙げ、最終利益段階において3期ぶりの黒字転換を果たしました。

世界経済についてはBRICsを初めとする新興国を中心に緩やかながらも回復に転じてきており、不況の長期化が危惧されていた米国市場においても、ようやく景気の底打ちの兆しが見られるようになってきております。

このような市場環境下において、当社グループの対処すべき当面の課題としては、①成長へ向けた売上の回復・拡大、②「収益改善計画」の遂行により築き上げた収益構造の維持・強化を図り、更なる利益率の改善、③財務体質の強化・改善に取り組んでまいります。

①成長に向けた売上の回復・拡大 《家庭用機器事業》

家庭用ミシンメーカーのトップグループとしての地位強化に向け、年間200万台の販売を目指します。

海外市場におきましては、最大のミシン市場であり、ようやく景気の底打ちから回復の兆しを見せている北米において、早急に販売の回復・拡大を図ります。特に、ミシン専門店向け販売シェアの30%獲得を目指します。

また、既存市場での販売の維持・拡大に加え、今後更なる拡大が期待できる中南米・アジアといった新興国市場での販売強化に注力します。

国内市場におきましては、消費者と直接意思疎通を図りながら商品の説明が出来るという訪問販売のメリットを維持しながら、直営支店配置を適宜見直し、効率的な販売体制を構築します。同時に、販売形態の多様化に対応し、代理店経由、オーナー店経由での販売強化を図ります。

《産業機器事業》

国内外の営業・サービス拠点を充実させ、特に、世界の工場と

称される中国、インドを始めとするアジア市場での販売拡大を図り、卓上ロボット・エレクトロプレス業界における当社の地位を確立することを目指します。

ダイカスト鑄造関連事業においては、受注が自動車関連業界に偏重している状況を改善するべく、他業種の顧客開拓を図ると同時に、当社グループが開発した小ロット鑄造法Ⅱの積極的展開を図り、小ロットから量産までの一括受注と付加価値の向上を目指します。

②効率的経営推進による利益率の改善

収益改善施策の実行により築き上げた収益構造及びローコストオペレーションの維持・強化を図りながら、売上規模を拡大させることで、収益体質の更なる改善を図ります。目標としては売上高営業利益率10%を目指し、この数値達成へ向けた道筋を早急に作り上げます。

③財務体質の強化・改善

当社グループの財務体質は棚卸資産の減少、有利子負債の減少等改善しつつあるものの、まだ多額の累損を抱えており、利益の拡大により早期の累損解消を目指すと同時に、財務体質の強化・改善に向け更なるキャッシュポジションの改善を図ります。

2011年3月期の連結業績予想につきましては、売上高37,000百万円（前期比3.5%増）、営業利益1,800百万円（前期比34.2%増）、経常利益1,200百万円（前期比25.4%増）、純利益800百万円（前期比51.2%増）を計画しております。

株主のみなさまにおかれましては、変わらぬご支援ご鞭撻を賜われますようお願い申し上げます。

2010年6月

※詳細につきましては、当社ホームページをご覧ください。

ホームページ <http://www.janome.co.jp>

連結財務諸表

連結貸借対照表 (2010年3月31日現在)

(単位：百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	20,162	流動負債	20,966
現金及び預金	7,471	支払手形及び買掛金	2,990
受取手形及び売掛金	6,128	短期借入金	14,531
商品及び製品	3,751	1年内償還予定の社債	800
仕掛品	397	未払法人税等	282
原材料及び貯蔵品	1,499	賞与引当金	306
繰延税金資産	545	その他	2,054
その他	484		
貸倒引当金	△117		
		固定負債	15,897
		社債	60
		長期借入金	5,681
固定資産	30,350	再評価に係る繰延税金負債	5,064
有形固定資産	25,260	退職給付引当金	4,368
建物及び構築物	7,129	その他	723
機械装置及び運搬具	920		
土地	15,945	負債合計	36,863
建設仮勘定	383	(純資産の部)	
その他	880	株主資本	8,935
		資本金	11,372
無形固定資産	1,555	資本剰余金	823
のれん	1,000	利益剰余金	△2,936
その他	554	自己株式	△325
		評価・換算差額等	4,125
		その他有価証券評価差額金	△51
投資その他の資産	3,534	繰延ヘッジ損益	△2
投資有価証券	1,224	土地再評価差額金	5,927
繰延税金資産	1,710	為替換算調整勘定	△1,748
その他	745		
貸倒引当金	△146	少数株主持分	588
		純資産合計	13,649
資産合計	50,512	負債純資産合計	50,512

連結損益計算書 (2009年4月1日から2010年3月31日まで) (単位：百万円)

科 目	金 額	金 額
売上高		35,746
売上原価		21,195
売上総利益		14,551
販売費及び一般管理費		13,209
営業利益		1,341
営業外収益		
受取利息	22	
受取配当金	49	
助成金収入	85	
雑収入	165	323
営業外費用		
支払利息	471	
為替差損	64	
雑損	171	707
経常利益		957
特別利益		
固定資産売却益	24	
補償金受入益	421	446
特別損失		
固定資産除売却損	74	
減損損失	132	
事業再編損	47	
投資有価証券売却損	6	
投資有価証券評価損	13	
貸倒引当金繰入額	81	356
税金等調整前当期純利益		1,047
法人税、住民税及び事業税	409	
法人税等調整額	64	474
少数株主利益		43
当期純利益		529

連結キャッシュ・フロー計算書 (2009年4月1日から2010年3月31日まで) (単位：百万円)

科 目	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,543
投資活動によるキャッシュ・フロー	153
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,692
現金及び現金同等物に係る換算差額	81
現金及び現金同等物の増減額	2,086
現金及び現金同等物の期首残高	4,866
現金及び現金同等物の期末残高	6,869

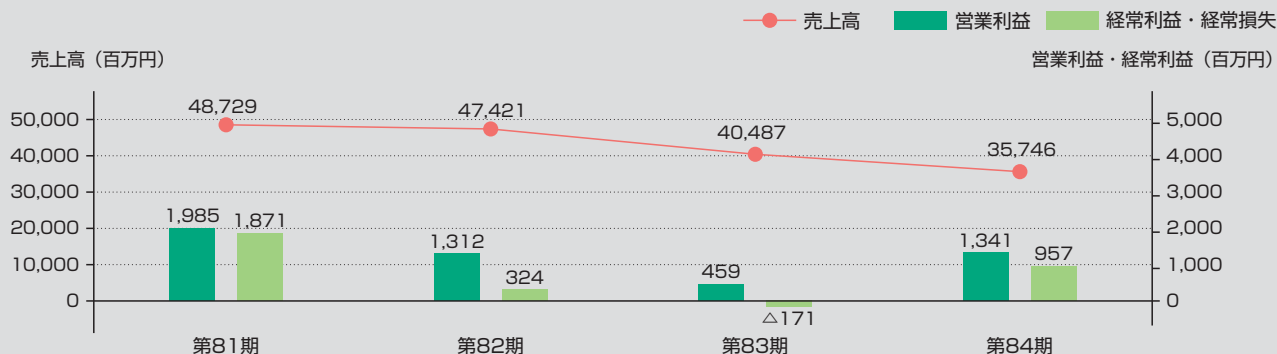
連結株主資本等変動計算書 (2009年4月1日から2010年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本					評価・換算 差 額 等	少数株主持分	純資産合計
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
2009年3月31日 残高	11,372	823	△ 1,844	△ 325	10,026	2,172	541	12,740
連結会計年度中の変動額								
当期純利益			529		529			529
連結範囲の変動			10		10			10
自己株式の取得				△ 0	△ 0			△ 0
土地再評価差額金取崩			△ 1,631		△ 1,631			△ 1,631
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)						1,952	46	1,999
連結会計年度中の変動額合計	-	-	△ 1,091	△ 0	△ 1,091	1,952	46	908
2010年3月31日 残高	11,372	823	△ 2,936	△ 325	8,935	4,125	588	13,649

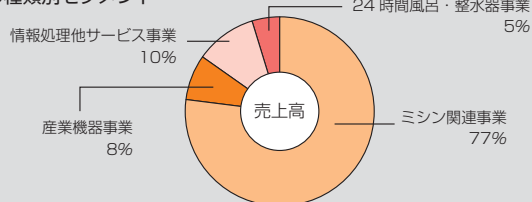
連結決算推移

●売上高・営業利益・経常利益

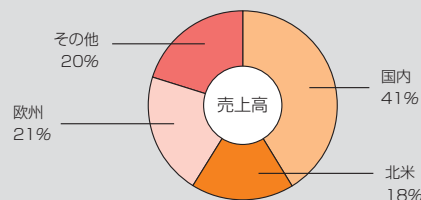


●連結セグメント情報 (2009年4月1日~2010年3月31日)

事業の種類別セグメント



地域別セグメント



個別財務諸表

個別貸借対照表 (2010年3月31日現在)

(単位：百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	13,840	流動負債	20,678
現金及び預金	5,258	支払手形	255
受取手形	532	買掛金	5,848
売掛金	5,263	短期借入金	12,426
商品及び製品	821	1年内償還予定の社債	800
原材料	775	未払金	67
仕掛品	87	未払費用	579
貯蔵品	40	未払法人税等	119
前払費用	79	前受金	210
繰延税金資産	303	預り金	125
短期貸付金	423	賞与引当金	167
その他	266	その他	77
貸倒引当金	△10		
		固定負債	13,895
固定資産	32,709	長期借入金	5,600
有形固定資産	22,143	再評価に係る繰延税金負債	5,064
建物	5,735	退職給付引当金	2,610
構築物	235	未払功労金	388
機械及び装置	63	預り保証金	167
車輛及び運搬具	1	その他	63
工具器具及び備品	362		
土地	15,372	負債合計	34,573
建設仮勘定	372	(純資産の部)	
		株主資本	6,108
無形固定資産	546	資本金	11,372
借地借家権	407	資本剰余金	823
のれん	59	資本準備金	823
その他	78	利益剰余金	△5,763
		利益準備金	39
投資その他の資産	10,019	その他利益剰余金	△5,802
投資有価証券	1,164	繰越利益剰余金	△5,802
関係会社株式	7,025	自己株式	△325
長期貸付金	436	評価・換算差額等	5,869
固定化営業債権	132	その他有価証券評価差額金	△55
長期差入保証金	184	繰延ヘッジ損益	△2
繰延税金資産	1,048	土地再評価差額金	5,927
その他	173		
貸倒引当金	△147	純資産合計	11,977
資産合計	46,550	負債純資産合計	46,550

個別損益計算書 (2009年4月1日から2010年3月31日まで) (単位：百万円)

科 目	金 額	金 額
売上高		26,992
売上原価		18,456
売上総利益		8,536
販売費及び一般管理費		8,262
営業利益		273
営業外収益		
受取利息	36	
有価証券利息	0	
受取配当金	438	
雑収入	143	618
営業外費用		
支払利息	405	
為替差損	55	
雑損	141	602
経常利益		290
特別利益		
固定資産売却益	21	
補償金受入益	412	433
特別損失		
固定資産除売却損	56	
減損損失	63	
関係会社株式評価損	132	
貸倒引当金繰入額	81	334
税引前当期純利益		389
法人税、住民税及び事業税	146	
法人税等調整額	34	180
当期純利益		208

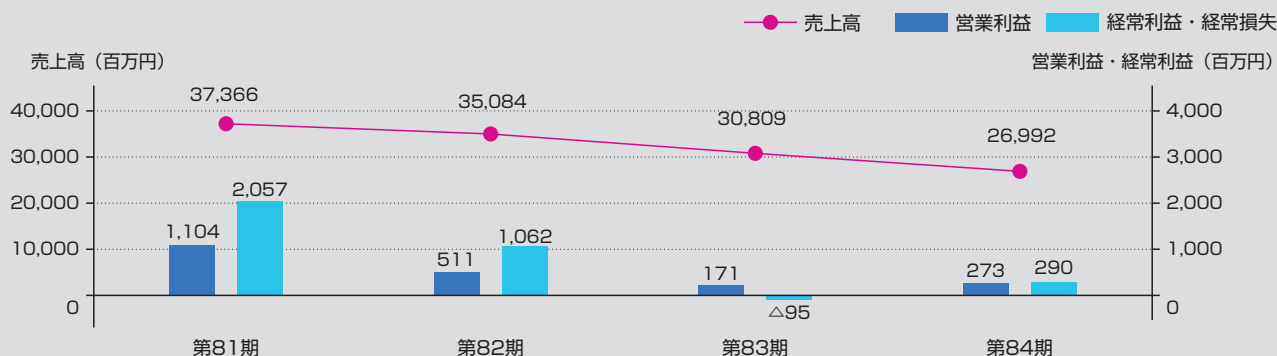
個別株主資本等変動計算書 (2009年4月1日から2010年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本					評 価 ・ 換 算 等 差 額	純資産合計
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自 己 株 式	株主資本合計		
2009年3月31日 残高	11,372	823	△ 4,340	△ 325	7,531	4,241	11,772
事業年度中の変動額							
当期純利益			208		208		208
自己株式の取得				△ 0	△ 0		△ 0
土地再評価差額金取崩			△ 1,631		△ 1,631		△ 1,631
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)						1,627	1,627
事業年度中の変動額合計	-	-	△ 1,423	△ 0	△ 1,423	1,627	204
2010年3月31日 残高	11,372	823	△ 5,763	△ 325	6,108	5,869	11,977

個別決算推移

●売上高・営業利益・経常利益



株式の状況 (2009年4月1日から2010年3月31日まで)

(単位：百万円)

発行可能株式総数 3億6,000万株
 発行済株式総数 1億9,521万4,448株
 期末株主数 20,775名(前期末比1,338名減)

株主構成比率(所有株式数ベース)



国内向けコンピュータミシン3機種

お客様の目的や用途に合わせ、普及タイプから自動糸切機能がついた高機能タイプまでのコンピュータミシン3機種を新たにラインアップに加えました。

特に最上位機種「ME830」は、自動糸切機能に加え、送りの安定性や押さえ圧調節機能を搭載するなど、使いやすさにこだわったコンピュータミシンです。



カバーステッチ専用ミシン「エスプリ796R」

ストレッチ素材が楽に縫える「エスプリ796R」は、カバーステッチ専用ミシンとして、家庭用ミシンの感覚で縫えるよう最大のソーイングスペースを確保し、大きな作品でも簡単に縫い作業ができることが最大の魅力です。また、フリーアーム機構を採用し、袖縫いや裾縫いが簡単にできるようになっています。

さらにルーパー糸調子切替機能を追加し、インナーウェアにはソフトな縫い目で肌に優しい仕上がりに、 OUTERウェアには、タイトな縫い目でしっかりした仕上がりに、それぞれ用途に合わせて使い分けができるようになりました。



「エレクトロプレス小型制御ボックス仕様」

蛇の目ミシン工業(株)では、サーボモーターを用いたプレス機のパイオニアとして、1984年からエレクトロプレスの販売を行っており、自動車部品を中心に電子機器・電池・化粧品・医療業界等多くの分野の製造品質向上のお手伝いに取り組んで参りました。この度、長年のノウハウの蓄積により開発された「エレクトロプレスJPシリーズ4」の性能をそのまま維持しながら制御ボックスを小型化し、最大30%のコストダウンを実現したモデルを発表いたしました。

エレクトロプレス JP シリーズ 4 ユニット型構成



● ピンクリボン運動への応援開始 ●

蛇の目ミシン工業（株）は、3月1日より、(財)日本対がん協会の乳がん撲滅に向けた「ピンクリボン運動」への応援を開始いたしました。家庭用ミシンを購入されるお客様は、そのほとんどが女性であり、様々な場面でお客様と接する機会を活かし、ポスター等により広く理解を求めるほか、乳がん検診をお薦めるパンフレットの配布を通じて、乳がんに対する意識を高めてまいります。

また、「ピンクリボン運動」協賛ミシンを6機種設定し、それらの売上金の一部を、「乳がんをなくすほほえみ基金」に寄付いたします。蛇の目グループでは、すでにジャンメオーストラリア社、ジャンメニュージーランド社が「ピンクリボン運動」を応援しており、日本国内でもこの運動を通じて、乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の大切さを広め、社会貢献するグローバル企業としての責務を果たしてまいります。



Secio 11500



HyperCraft 12000



シェーネⅡ (ピンク)



シェーネⅡ (グリーン)



DP-210



KP-215

ピンクリボン運動について



「ピンクリボン運動」は、アメリカで1980年代からその活動が盛んになりました。乳がんは、早期に発見すれば95%が治癒するといわれています。このため、行政、市民団体、企業などが乳がんの早期発見・早期診断・早期治療を啓発するためのイベントを展開し、また、ピンクリボンをあしらった商品を販売して、収益を研究団体に寄付することなどが、積極的に行われています。

日本では、2000年頃から、地方公共団体、民間団体および企業での活動が活発になり、さまざまなイベントが行われるようになっていきます。

**ジャンメは、乳がん征圧のための
売上げの一部を「ほほえみ基金」
に寄付します。**

「乳がんをなくすほほえみ基金」とは

「乳がんをなくすほほえみ基金」は早期発見のための知識啓発、マンモグラフィなど乳がん検診機器の整備、医師・放射線技師の育成、患者支援などに使われています。

●「東京国際キルトフェスティバル」に出展●

蛇の目ミシン工業(株)は、1月15日(金)から23日(土)の9日間に亘り、東京ドームで開催された「東京国際キルトフェスティバルー布と針と糸の祭典ー2010」に協賛企業として出展いたしました。

東京国際キルトフェスティバルは、国内最大規模を誇り、開催期間中に延べ約25万人の方が来場されました。

当社ブースでは、セシオ11500、ハイパークラフト10000を中心にデモンストレーションや作品展示などを行い、来場者された方に最新ミシンの特徴をPRすると同時に、豊富なアタッチメントを使ったデモンストレーションも行うなど、多くの方々にものづくりを体験していただきました。

ミニ教室コーナーでは、著名なキルト作家の先生によるミシンキルト教室が行われ、受講された方は300名を超えました。

連日大盛況となりました当社ブースは、多くのキルト愛好家にジャノメブランドを認識してもらった絶好の機会となりました。



●「業務用24時間風呂」と「足湯浴槽」とのセット販売について●

この度、業務用24時間風呂の販売拡大を図るため、足湯浴槽とのセット販売を開始いたしました。

足湯浴槽は、昨今の健康志向ブームを反映して、人の集まりやすい観光施設や公共施設などに設置していただくことで、子供からお年寄りまで世代を超えて楽しめる設備です。

この健康志向にマッチした足湯浴槽と業務用24時間風呂「バス・エース」600Rとのセット発売によって、新たな販売ルートを開拓し、販売拡大につなげてまいります。



▲足湯浴槽設置例

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
基準日	毎年3月31日
株主名簿管理人 及び特別口座の 口座管理機関	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同連絡先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-78-2031（フリーダイヤル） 取次事務は中央三井信託銀行株式会社の全国各支店ならびに日本証券 代行株式会社の本店及び全国各支店でっております。
公告の方法	電子公告の方法により行います。ただし、やむを得ない事由により 電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
公告掲載のURL	http://www.janome.co.jp

株式のお手続き等についてのご注意

- 住所変更等、弊社株式に関するお手続きにつきましては、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）にお問合せください。
- 特別口座の株式に関する各種お手続きにつきましては、中央三井信託銀行株式会社が口座管理機関となっておりますので、上記連絡先にお問い合わせください。
- 株券電子化に伴い、株主さまのお名前などに株式会社証券保管振替機構で指定されていない文字が含まれる場合は、通知物のあて名の一部または全部が同社の指定する文字に置き換えられることがありますので、あらかじめご了承ください。株主さまのお名前などの登録されている文字につきましては、お取引の証券会社等にお問い合わせください。

蛇の目マシン工業株式会社

〒193-0941 東京都八王子市狭間町1463番地 TEL. 042(661)3071

